Ｚ－67－Ａ　簿記論〔第一問〕－解　答－

（黒丸数字は予想配点を示す。）

問 1

(1)

①	❶	2,750,000	円
②	❶	1,710,000	円
③	❷	前　受　金	
④	❶	2,400,000	円
⑤	❷	261,120	円

(2)

①　三分割法(その都度法)における決算整理仕訳　❶　　（単位：円）

借方		貸方	
勘定科目	金額	勘定科目	金額
仕訳不要			

②　総記法における決算整理仕訳　❷　　（単位：円）

借方		貸方	
勘定科目	金額	勘定科目	金額
積　送　品	200,000	積送品販売益	200,000

問 2

①	❷	315,000	千円
②	❷	534,420	千円
③	❶	△41,200	千円
④	❷	△58,700	千円
⑤	❶	81,720	千円
⑥	❷	△9,000	千円
⑦	❶	25,000	千円
⑧	❷	△600	千円
⑨	❷	△200	千円

Ｚ－67－Ａ　簿記論〔第二問〕－解　答－

（黒丸数字は予想配点を示す。）

問 1

（単位：百万円）

借方 勘定科目	借方 金額	貸方 勘定科目	貸方 金額
現金預金	100	借入金	180
土地 ❶	500	自己株式 ❶	30
仕掛研究開発 ❶	50	資本金	300
		資本剰余金 ❶	140

問 2

① 当期の利息費用の金額　（ ❷ 5,000 ）千円

② 当期の長期期待運用収益の金額　（ ❷ 2,400 ）千円

③ 当期の退職給付費用の計上仕訳 ❸　（単位：千円）

借方 勘定科目	借方 金額	貸方 勘定科目	貸方 金額
退職給付費用	10,040	退職給付引当金	10,040

④ 保険会社から退職者への退職年金支払いの仕訳 ❶　（単位:千円）

借方 勘定科目	借方 金額	貸方 勘定科目	貸方 金額
仕訳不要			

⑤ 期末の退職給付引当金の金額　（ ❷ 36,040 ）千円

問 3

① 新株発行に関する仕訳 ❷　（単位：千円）

借方 勘定科目	借方 金額	貸方 勘定科目	貸方 金額
当座預金	100,000	資本金	50,000
		資本準備金	50,000

② 株式交換に関する仕訳 ❸ （単位：千円）

借方		貸方	
勘定科目	金額	勘定科目	金額
関係会社株式	960,000	**資本金**	480,000
		資本準備金	480,000

③ その他有価証券評価差額金の金額 （❷ 60,000 ）千円

④ 繰越利益剰余金の金額 （❷ 490,000 ）千円

⑤ 純資産の部の合計金額 （❷ 4,060,000 ）千円

Ｚ－67－Ａ　簿記論〔第三問〕－解　答－

（黒丸数字は予想配点を示す。）

（単位：千円）

番号	勘定科目		金額	番号	勘定科目		金額
(1)	当座預金・Ｘ銀行	❶	△1,100	(21)	買掛金	❶	18,770
(2)	売掛金	❶	42,200	(22)	未払法人税等	❶	4,488
(3)	繰越商品	❶	28,450	(23)	未払消費税等	❶	1,096
(4)	土地	❷	111,990	(24)	為替予約	❷	△200
(5)	投資有価証券	❶	22,118	(25)	貸倒引当金	❶	1,523
(6)	繰延税金資産	❶	15,952	(26)	賞与引当金	❷	22,000
(7)	仕入	❶	400,090	(27)	繰延税金負債	❶	480
(8)	商品廃棄損	❶	150	(28)	退職給付引当金	❷	16,500
(9)	商品評価損	❶	100	(29)	その他有価証券評価差額金	❷	60
(10)	人件費	❷	40,000	(30)	繰延ヘッジ損益	❷	120
(11)	退職給付費用	❷	1,835	(31)	売上	❶	500,500
(12)	物件費	❶	18,030	(32)	仕入値引	❶	0
(13)	減価償却費	❶	2,500	(33)	有価証券利息	❷	232
(14)	貸倒引当金繰入(一般債権)	❶	22	(34)	為替差益	❶	541
(15)	為替差損	❶	6	(35)	固定資産売却益	❷	150
(16)	投資有価証券評価損	❷	1,300	(36)	法人税等調整額	❶	1,592
(17)	固定資産売却損	❷	650				
(18)	減損損失	❷	25,000				
(19)	貸倒引当金繰入(懸念債権)	❷	500				
(20)	法人税等	❶	6,488				

簿　記　論　【総評】

〔はじめに〕

全体としては、例年よりやや控えめな分量と難易度であり、一般的な受験生にとっては比較的取り組みやすい印象であったと思われる。そのため、合格ラインのイメージとしては、少し高めの想定となり、第一問と第二問の合計で60～65％程度、第三問で60％弱程度の得点ができれば理想的である。

〔第一問〕

問１は委託販売に推定を絡めた問題であった。決して平易とはいえない推定手順を要するものであり、見切りを付けるタイミングがポイントであった。**問２**はキャッシュ・フロー計算書を含む財務諸表を資料として、その空欄を算定する典型的な推定問題であり、比較的取り組みやすかったはずである。ただ、完全解答には相応の時間を要するものであり、**問１**と合わせて30分弱の制限時間とすれば、意外と得点は伸びないかもしれない。

予想ボーダーライン：13点～15点

〔第二問〕

問１の吸収合併の仕訳については、見た目の印象ほど平易なものではなく、完全解答は困難であろうと思われる。そのため、仕訳を一括した採点ではなく、部分的な採点を期待して、配点基準を付している。**問２**の退職給付会計および**問３**の純資産会計については、いずれも標準レベルの内容であり、できるだけ取りこぼしなく、しっかり得点しておく必要があろう。

予想ボーダーライン：17点～19点

〔第三問〕

一般的な決算整理型の総合問題であった。第三問としては例年よりやや控えめな分量と難易度であり、しっかり時間を掛けて取り組めば、相応に得点を伸ばすことができたであろう。例年通りの戦略であるが、資料前半に見られる商品売買関連の処理は後回しにして、資料後半の個別的な決算整理事項から解き進め、投資有価証券、賞与引当金、退職給付引当金、為替予約（繰延ヘッジ）、有形固定資産に関連する部分を中心に、16～18カ所程度を正答できていればよいであろう。

予想ボーダーライン（〔第三問〕）：27点～32点

〔合格ライン〕

簿記論の予想合格ボーダーライン：58点～65点（ＬＥＣの想定する配点基準に基づく）

配点基準が変われば合格ラインも上下するので、おおよその目安として合格ラインを見るようにしていただきたい。